

町村週報

(町村の購読料は会費
の中に含まれております)

2377号

毎週月曜日発行

発行所 **全国町村会** 〒100 0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号 : 電話03 3581 0486番 FAX03 3580 5955
発行人 渡辺 明 : 定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110 8 47697 <http://www.zck.or.jp>

閑話休題

飛驒の高山市と富山県の間に河合村という山村がある。この村が東京の中の東京ともいっべき麻布十番の商店街に、真夏に雪を届けてイベントを行うようになって足掛け十三年になる。名づけて「かわいむらんど麻布十番納涼雪まつり」という。この夏も、山間に保存されていた約六〇トンの雪が四台の大型トラックで運ばれ、人気のキャラクターや合掌造り、機関車などの雪像に仕立てられた。特産物も運ばれ、三日間で六千匹の岩魚の塩焼きが完売したという。行政同士の連携と異なり、開かれた商店街が相手では、単純な見返りは期待できない。このような場に、価値あるものを送りつつけていることは、大変な心意気だと思う。

いものがある。この村の上流には小鳥ダムの大きな湖水があり、そこでは通称アメリカなまず、正しくはアメリカン・チャネル・キャット・フィッシュという淡水魚が養殖されているのだが、十年あまり前に村の宿泊施設にリターンしてきた調理師の吉川隆男さんが、ふぐに似た味わいに目をつけ、これをすばらしい料理に仕立て上げた。そしてこれを賞味した岐阜県の梶原知事が、「飛驒名物・河ぶく料理」と命名したのだという。

八年前に初めて河ぶぐにめぐり合い、この十月に河合村を訪れた筆者は、その料理がさらに工夫を重ねた素晴らしいものになっていることに驚かされた。フランス料理の修行をした吉川さんだけあって、ほのかに欧風を感じさせる部分もあり、手ごるなワインを用意すれば、都市からの客がさらに舌鼓を打つことは間違いないであろう。管理の水田順子さんのホスピタリティがあいまって、ロッジは黒字経営を続けている。

山村に旨いものあり

これらの試みをリードしてきた松井靖典村長は、大卒後村に帰り、二十代で教育長に抜擢された人材である。筆者は大学院の時代にこの村を訪ね、直接話を伺った仲であるが、今の河合村の素敵な試みを見るにつけ、できる人に活躍の場を用意することがいかに大切かを思わざるを得ない。

(早稲田大学教授 宮口侗迪)



冬空に向かって

もくじ

政 策	個人の自発、自立を強調 = 平成13年版厚生労働白書(解説).....
フォーラム	住民参加で花のまちづくり = 鹿児島県山川町.....
情 報	カプセルNOW & NEW
随 想	洪水に学ぶ京都府大江町長 佐藤克巳.....
情 報	政策レーダー

解説

厚生労働白書

個人の自発、自立を強調 「勤労のための福祉」打ち出す



平成十三年版の厚生労働白書は、省庁再編による旧厚生・労働両省の合体後、初めてまとめられた白書となる。このため、内容は、「新たに発足した厚生労働省のレーゾン・ゲートル(存在意義)を省内外に改めて確認する」(官房)との視点を強く意識。白書の主題は「生涯にわたり個人の自立を支援する厚生労働行政」とし、経済、心身両面で「自立」し、自発的に行動するのが現代の人間像とまず描き出した上、そうした個人を支援する厚生労働行政というスタンスを強調した。経済と福祉

の関係では、不況の長期化で失業率も増大する中、個人が勤労により自らの生活を支えるのを前提に、イギリスのブレア政権流の「welfare to work」(勤労のための福祉)との考え方を従来以上に鮮明に鮮明に打ち出している。

白書はまず、十三年版の編さんの狙いを、「今日の我が国における個人をめぐる社会状況の変化について分析するとともに、個人の生涯を通じてた人生の充実と社会の活性化のために求められている支援の在り方について考察することにした」と表明。

その「個人を取り巻く状況」は、「少子高齢化社会、安定経済成長時代の到来を背景に、家族の機能、雇用慣行が大きく変化し、個人が家族や職場など一つの『場』に全面的に帰属していくことが困難になりつつある」と分析。かつての高度成長期のような会社主義や、それへのアンチテーゼとして登場したマイホーム主義をいずれも否定しつつ、個人が「家族、職場、地域社会等の複数の『場』とバランスよく関わりを持つていくことが重要」との問題意識を表明した。

さらに、そうした社会状況の下で生きる個人には「自覚と責任が求められる」と指摘。健康面では「自らの健康は自ら守る意識が重用とし、若年期からの食生活や喫煙などの生活習慣の改善を国民に要請。雇用面でも、低成長経済や産業構造転換による労働移動の増加に伴い、「入職後において主体的に自己の能力開発を行うていくことが従来以上に求められている」と強調し、終身雇用の慣用が崩れ、リストラも広まる中、自助努力によりキャリアアップして

生き抜く覚悟を勤労者に促した。その上で、旧厚生省のレーゾン・ゲートルとも言える社会保障制度については、「個人がリスクを恐れることなく物事に生き生きと挑戦できるようにするため、自立を支える仕組みとしての社会保障制度の役割は大」と述べ、あくまでも個人の自立をまず強調。さらに、経済成長鈍化、雇用慣行多様化の中で、「セーフティネットとしての社会保障の重用性は増大」とし、失業時の生活保障などの役割は増しつつあると分析した。

以上は今回の白書全体を貫く基調部分。以下、その基調の下での各論部分として、同省自身の分類にも従い、「団塊の世代」、「高齢者」、「若年層」の三つの世代に焦点を当てて白書の中身を追ってみる。

団塊の世代は老後も働くか
団塊の世代とは、戦争が終わって一九四六、五〇年前後の第一次ベビーブーム期に生まれ、六〇年代からの高度経済成長を主要な働き手として支え、現在は五〇歳代前半の年齢層を指す。旧厚生、労働省時代を通じ、白書でこの世代に本格的にスポットを当てたのは初めて。その背景には、この世代がサラリーマンと専業主婦というこれまでの典型的な世帯像や、年功賃金などの雇用慣行を創出し、旧厚生、労働両省もそれをモデルに年金、医療保険、雇用保険などの現行の社会保障制度の骨格形成に努めてきたという事情があり、今それが曲がり角に来ているとの厚労

政 策

省の問題意識も隠されている。

白書は、この世代の位置付けを「社会に影響を与える団塊の世代の動向」と総括。具体的には、高度経済成長期、団塊の世代が働き手として農村から都市へと移住してきた結果、生活面では「家族の形態が大家族から核家族へと変容するとともに、夫は外で働き、妻は家事を担う」という性別による役割分業が確立した」と分析。一方ではそうした都市への人口移動が「個人と地域社会とのかかわりが希薄化する一因となった」と指摘する。

経済面では、「高度経済成長期に団塊の世代が多数入職し、安価な労働力が豊富に供給されたことで、企業にとっては年功賃金を導入しやすいう環境が整った」とする一方で、「現在団塊の世代は一般的に最も賃金が高く、かつ年功賃金の仕組みの上で貢献の度合いよりも賃金が高いとされる年代に該当する」と、当人たちが聞けば飛び上がりそうな分析を開陳。その上で、「こつした者が従業員構成の上で多くを占めるようになってきたことが、企業の年功賃金見直しの動きの一因と考えられる」とし、高度経済成長を支えた団塊の世代に対して厳しい見方を展開している。

この世代の今後はどうか。白書の言わんとするところは、端的には「老後も働いてもらう」ということの模様。まずは「高齢者が経済的に自立し、就業を通じてその知恵や経験を社会に還元できるよう、年齢にか

かわりなく働いていける社会を実現していくことが必要」との前提を打ち出した上、「団塊の世代が高齢期にさしかかるのは目前であり、早急に国民的議論を積重ねていくことが必要」と強調している。人口数の多いこの世代が全面的に「支えられる側」に回るのでは、社会保障制度が保てなくなるといって同省の危機意識の現れと言えそつだ。

高齢者も就労で自立を

主に六五歳以上の高齢者については、「就業と世代間交流」をポイントに据えた。まず就業面では、「高齢者の労働力率の国際比率でみると、日本の高齢者の就業意欲は高い。長い職業人生の中で培った豊富な知恵や経験を就労を通じて継承することは重用」とエールを送る。他方で、「高齢者雇用情勢は厳しく、中高年層の非自発的離職時の再就職が年齢制限の壁により阻まれている状況もある」との現状認識を表明。そこから「高齢者の働き方は多様であり、社会経済の活力を削がないためにも、高齢者の就労を通じた自立を支援することが求められる」とし、ここでも自立支援をキーワードに持ち出した。

高齢者による世代交流の促進では、アンケート調査などから「若い世代との交流に参加したいとする高齢者は過半数」と指摘。高齢者の知識、技能の伝承や、経済面での高齢者の高度熟練技術の情報収集・提供など、高齢者と若い世代の交流を促

進するための社会基盤整備に乗り出す考えを示した。

若者のフリーター、「社会に」とつても損失

「定職に就かない、親と同居して、経済支援を受け続ける、パラサイト」など、何かにつけ自意識の希薄化が指摘される二〇代などの若者層。今回の白書ではこの世代にも初めて本格的にスポットを当てた。まずは生活面での現状認識として、「未婚の若者の多くは就業後も親と同居し、経済的な負担を免れつつ、親から身の回りの世話を受けられることが晩婚化の背景にある」と指摘がある」と述べる一方、「必ずしも未婚者の側が同居による経済的恩恵を一方的に受けているわけではない。親を支えるために同居している若者もいる」との調査結果もある」と指摘し、「パラサイトシングル」などの十把一からげの見方には慎重な姿勢を示した。

ただし、就労面では、「いわゆる『フリーター』のヒアリング調査によると、将来の見通しを持たないままフリーターとなった者が約四割を占めており、若年層に就労意識の希薄な者がいることがうかがえる」。近年、特に大学卒で卒業後無職となる者が増加している」と問題視。その上で、「彼らが社会の中で能力を十分に発揮できていない現状は、本人にとってはもちろん、社会にとつても損失。適性にあった職場を選択し、将来にわたる職業生活を適切に設計していけるよう、在学中の早い段階

から職業意識の形成を促す等の支援が必要」とし、高校や大学での職業教育の充実に取り組み構えを示した。

また、超氷河期と言われる現在の就職戦線の下、職業意識が希薄でないにもかかわらず、新規採用の絞り込みによって不本意ながら派遣社員やフリーターなどの非正社員として働いている若者層の存在も当然ながら意識。こうした層に対しても今後、就労を通じた自立が円滑に進むよう社会環境整備に取り組み考えを打ち出している。

白書はこのほか、ハンセン病訴訟で国が全面敗訴し、責任を認めて控訴を断念したことを受け、施設への隔離政策が患者の人権を侵害し、偏見と差別を生じさせたとして、「深く反省し、率直にお詫びするとともに、多くの苦しみと無念の中で亡くなられた方々に哀悼の念を捧げた」と元患者らに表明。併せて、先に成立した補償新法に従った金銭などでの補償措置や、患者・元患者の名誉回復と福祉増進に向け行政として全力を挙げて取り組む決意を示した。

さらには、不況に伴う自殺者の増加、児童虐待の深刻化などの「心の問題」も白書は重視。現代病とも言えるこうした問題については、家庭、学校、地域、職場の在り方を見直し、それらのつながりを再構築するとともに、そうした連携を通じて問題事例の早期発見と支援に取り組む考えを強調している。

平成12年度 地域づくり自治大臣表彰

住民参加のまちづくり



現地レポート

鹿児島県

やま がわ ちょう

山川町

住民参加で花のまちづくり

はじめに

山川町は薩摩半島の最南端鹿児島湾口に位置し、面積三七・一八平方キロメートル、人口一〇、八三五人(平成十二年国勢調査人口)の町で、平成十二年に町制施行七十周年を迎えました。地形は北側を山地が、南側を耕地がその主要部を占め東シナ海に臨んでおり、気候は、暖流の影響で年間の平均気温は十九と高く、また、比較的降水量も多い亜熱帯的気象条件で、台風が頻繁に来襲する地帯でもあります。

屈曲の多い海岸線約二十kmは変化に富み風光明媚な景観を呈しており、また、霧島火山脈が町内を縦断しているため至る所に温泉が湧出しているなど、豊かな地域資源を有しています。

本町の基幹産業は、農業と水産業です。農業については、耕地のほとんどが畑地で温暖な気候と豊富な泉熱を利用した施設や平成二年度までに完了した畑地かんがいにより、収益性の高い花きや野菜(そら豆・実えんどう・人参・葉菜類等)が栽培されています。水産業については、外来漁船に頼るところが大きいものの、山川港におけるカツオの水揚げ量は全国でも有数であり、また、鯉節製造は



全国の生産量の約三割を占めています。

豊富な温泉や温暖な気候など地域資源を生かした取り組みの一つとして、町では、地熱を利用した「地熱の里づくり」をすすめており、「天然砂むし温泉」や「地熱発電所」は県内外から多くの人々が訪れ、観光名所となっています。さらに、温泉を利用した複合的健康施設「ヘルシーランド」もオープンし、「地熱の里」の拠点となっています。

花のまちづくりへの取り組み

本町は古くから温暖な気候を利用した金魚草・電照菊・グラジオラスなどの切り花の生産も盛んで、鹿児島県フラワーセンター等も立地しバイオテクノロジー技術等を駆使して品種改良の試験が行われるなど花とは縁深い地でもありました。そして、県内でも有数の景勝地である長崎鼻周辺の花畑では、観光客に対する「花狩り」も行われ、また、郵便局とタイアップ

フォーラム



「花誘便」出発式

「花とびあ山川推進事業」に取り組み始めました。

『花とびあ山川推進事業』の開始とともに町内の主要道路沿いや集落内に花壇の整備を行い、地域で活動する老人クラブや子ども会等の団体に花苗の植え付けから管理ま

でを依頼しました。また、町内各学校等の花いっぱい運動や、町内で最も標高が高く目前に広がる東シナ海に浮かぶ島々・秀峰開聞岳・池田湖・鰻池など三六〇度のパノラマを楽しむことができる鷲尾岳周辺の桜並木の整備等にも着手しました。これは住民も花のまちづくりに参加することで、郷土への誇り、愛着を醸成させることが目的で、単に物的環境の整備にとどまらず、その過程における内的充実を重視しているものです。今では、老人クラブや花の愛好会等約二十団体が町内にある三十箇所(約五、〇〇〇㎡)の花壇を管理し、土づくりから花苗の植え付け、除草までが計画的に行われ、四季を通して花が楽しめるように



徳光老人クラブ花壇

なりました。また、桜も二、〇〇〇本以上植栽され、三月には多くの見物客が訪れ、満開の桜を眺めながら歩こう会等も催されています。

このような活動に併せて、平成三年には役場職員や花き農家、一般住民等から成る実行委員会が組織され、フラワーフェスティバルが開催されるようになりました。毎年三月の第一日曜日に全国で一番早い花のイベントとして催されるフェスティバルは、花狩りをメインとして、フラワージョギング、フラワーアレンジ教室、コンテナガーデンコンテスト、切り花・観葉・鉢物展示、フラワーオーケション、フラワーウェディングなど花にちなんだ催しで一日中楽



個人の庭づくり

しむことができます。中でも圧巻はフラワーウェディングで、フェスティバルに訪れた人々が見守る中、フラワーシャワーを全身に浴びながら二人が永遠の幸せを誓います。このフェスティバルは回を重ねることに来場者も増え、第十一回目を迎えた今では町内外から二万人を超える人々が訪れ、花のまち山川をアピールするとともに消費者と生産者の交流の場としても活かされています。

また、平成五年から「山川町花と緑のコンクール」も実施しています。このコンクールは、すべての町民が暮らしの中に花を育て、愛し、親しむことによって、優しい心を培うとともに、活力ある美しい「花のまち山川」づくりを目指した、花のまちづくり運動の拡大と定着を図ることを目的としています。このことよって、町民に花のまちづくりへの意識が浸透し、ガーデニングやフラワーアレンジ等の愛好者が増えてきており、行政と住民が一体となった花による景観形成が図られてきています。同時に、老人クラブや各種団体等でお互いの連帯感が深まり組織の活性化が図られています。さらに、老人クラブと小学校児童が一緒になった花壇づくり活動等の世代間の交流も図られ、花のま

フォーラム

徳光小学校正門



ちづくりが健全な地域社会の形成にも役立っています。

花のまちづくりの成果

花きの栽培が盛んなことと町民総ぐるみの花のまちづくりへの取り組みが認められ、平成八年には町内に県営の「フラワーパークがこしま」がオープンしました。フラワーパークがこしまは、花と緑のふれあいの場とし、また、消費者と生産者の交流拠点や魅力ある観光の拠点として開園しました。園内には世界の国々からハイビスカスやブーゲンビリア、ランタナをはじめとする亜熱帯植物を中心に、約二、五種類・四万本の花や木々が集められており、さんさんと降り注ぐ太陽の光

と温暖な気候、心地よい海風といった亜熱帯のムードを持つ本町の自然と溶け込んで、南の楽園といった趣を呈しています。平成十二年、フラワーフェティバルが第十回を迎えるにあたり、メイン会場をフラワーパークがこしまに移し、町のみならず県をも含めた形で、花のまち山川をPRするとともに、花に関する情報を全国に向けて発信しているところです。

このような一連の活動により、平成九年度には全国花のまちづくりコンクール市町村部門で優良賞を受賞し、また、老人クラブの一つである成川長寿会が平成九年度・十年連続して県の南日本花だんコンクールにおいて県知事賞を受賞しました。さらに、平成十



花狩り

二年度においては全国花のまちづくりコンクール市町村部門で優秀賞を受賞し、併せて住民参加のまちづくり自治大臣賞も受賞するという榮譽に浴したところです。

花のユートピアを目指して

この受賞により、町民の花のまちづくりに対する意識がますます深まっている中で、将来は、沿道や公共施設等の花壇の植栽だけでなく、町民一人ひとりが家庭の庭先を花木や草花で美しく飾ることでフラワータウン化を図るとともに、花のまちづくりが観光や産業の振興の起爆剤として、また、青少年の情操教育やボランティアの育成など健全な地域社会や生活環境の形成として展開されることを期待しているところですが、現状ではまだまだ力不足の感は否めません。したがって、今後さらに町民の地域に根ざした取り組みとして浸透させていく必要があります。

折しも、平成十三年度は第四次町勢振興計画のスタートの年となりました。『豊かな自然の恵みを生かし活力に満ちた魅力あふれる山川』を基本目標とし、町民総ぐるみで花のユートピアを目指して邁進していくこうと考えるところです。

(山川町長 中村治男)

損害保険

代理店

株式会社 千(ちさと)里

〒100-0014

東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館内

☎ 03-5512-4726(代)

営業所(全国26か所)

情 報

時間外勤務の縮減について
管理職の皆さんへ

総務省

時間外勤務を縮減しましょう！

長時間に及ぶ時間外勤務は、職員健康管理上問題があるだけでなく、疲労の蓄積により事務効率も低下します。

絶えず業務内容の見直しを行い、事務の外部委託や機械化の推進等により事務の合理化を進めましょう。

部局間で恒常的に勤務時間の差が生じているような場合は、事務配分や職員配置の見直しを行いましょ。

季節的な業務の繁閑が見られる場合には、応援体制の確立等柔軟な人員配置の工夫を心掛けましょ。

時間外勤務の縮減には管理職員のリーダーシップが大切です。

業務の遂行に当たっては明確

で適切な指示を与え、的確な進行管理に努めましょ。

特定の職員に仕事が集まらないよう事務配分や職員配置の調整に努めましょ。

時間外勤務に従事する職員の業務内容、健康の保持・管理に十分な注意を払いましょ。

職員に対して定時退庁するよう「声かけ」をしましょ。退庁時刻以降の会議開催は自粛しましょ。

週休日の振替の実施や代休日の取得は、計画的かつ確実に行うようしましょ。

定時退庁に努めましょ！

週に一度は定時退庁日を設け、定時退庁に努めましょ。

率先して定時退庁するとともに、定時退庁日には時間外勤務を命じないようしましょ。

この街、素敵にサポートします。



上下水道

交通

電気

ガス

住宅

北原 奈々子

お手伝いします。魅力ある地域づくり



公営企業金融公庫

情報

カプセル Now & New

農業集落電話を活用し 山形県
高速通信ネット 河北町

町は、町が五〇%出資する第三セクター「いんたーねっと・ひな」を設立し、現在ほとんど使われなくなった農村地域専用の有線電話「農業集落電話」の回線網を再利用し、高速(ADSL)のインターネット接続サービスを実施している。利用料金は月四千五百円の定額制。

福 島 県
不用家電の 会津高田町

町は、家庭で不用になつた家具や家電製品等を再利用希望者に仲介するリサイクル事業を行っている。資源の有効活用と不法投棄を防ぐのが目的。提供希望者には不用品の詳細や連絡先を登録してもらい、町は品目ごとに分類したファイルを公民館に備え付け閲覧に供している。

群馬県
外国人向け生活ガイド 大泉町

人口の割以上を外国人が占めている町は、日本の生活事情を理解してもらうため、こみの出し方や納税、子供の教育、緊急時の通報方法等について分かりやすく説明したビデオを制作した。ビデオはポルトガル語でつくり、役場窓口で放映し待ち時間などに見てもらっている。

千葉県
白鳥の里づくりを検討 本埜村

平成四年から八クチョウが飛来している村では、経済と環境

を両立させた村おこし策「白鳥の里、カエルの楽園構想」の取りまとめを進めている。構想には八クチョウの飛来地を遠巻きにしたウォーキングコースや親水公園などの整備を盛り込んでいくことを検討している。

山梨県
山村との ホットラインを開設 境川村

村は、村民の要望や意見を受け付ける直通電話「村民のみなさんとのホットライン」を開設した。相談しやすい態勢を整えるとともに、行政への関心を高めてもらうのがねらいで、随時受け付け、相談には助役が担当課長などと協議して答える。

新潟県
首都圏での滞り整理に 湯沢町

新幹線で東京から一時間半の距離にありバブル期に大量のリゾートマンションが建設された町では、バブル崩壊の影響で固定資産税等の滞納が累積していることから、東京都庁主税局徴収部OBの男性一人を専門嘱託員として採用し、首都圏での滞り整理に当たってもらう。

石川県
GISの 津幡町

町は、事務効率化を図つていくため、地理情報システム(GIS)を導入した共通データベースの構築を進めている。都市計画図や地番図などの紙の図面を一つにまとめることも、埋蔵文化財情報や独居高齢者の居住状況など、各課の様々な情報を書き込んでいく。

愛知県
藤岡町

IT活用の 情報化計画を検討
町は、ITの活用で町民とのコミュニケーション拡充を図っていくことを目的に、各課担当者からなるIT推進委員会が中心となって情報化計画を策定している。インターネットも利用できるCATV幹線敷設を終えたことから、この活用の方向性などを打ち出す予定。

奈良県
田原本町

弥生時代の 建物跡の柱穴を複製
町教育委員会は、平成十一年に同町の唐古・鍵遺跡で発見された弥生時代の大型建物の柱穴跡の实物大複製を作製した。同建物は総柱型建物としては日本最古とされ、すべての柱穴跡を複製したのは全国初。同遺跡は弥生時代の代表的な集落遺跡で、現在も発掘が進められている。

鳥取県
日南町

高速インターネットが 利用可能な住宅を分譲
過疎高齢化が進む町では、定住促進策の一環として、町役場と無線LANで接続し高速でインターネットが利用できる全国初の住宅団地「かすみニータウン」の分譲を行った。分譲戸数は十六戸で、専用アンテナなどを整えれば、高速インターネットが利用できるのが特徴。

広島県
新市町

FMの緊急情報放送 システムを活用
町は、民間のFMラジオ放送局が持つ緊急情報放送システムを活用したテスト放送を行っている。災害時などに通常のラジ

オ放送を中断して、放送局の外から一般電話で直接放送に割り込めるシステムで、車などで移動中にもラジオで緊急情報を聞くことができるようになる。

香川県
白鳥町

定住支援に助成金支給
町は、定住支援策の一環として、町に定住するため新たに建売住宅を購入したり、すでに取得済みの土地に住居を新築する夫婦や結婚予定者を対象に、年三十万円を三年間助成する事業を始めた。若い世代の定住促進がねらいで、制度申請時の年齢は四十五歳以下が条件。

宮崎県
諸塚村

木組みハウスの 試作品を開発
林業が盛んな村は森林組合などとともに、村産のスギを使った組み立て式の木組みハウスを開発した。床面積六平方メートル、屋根までの高さ二・六メートル、キャンプ用などでの利用を見込む。現在は試作段階で、改良を加えた上で販売していくことを計画している。

鹿児島県
有明町

町の予算の解説書を 町民に配布
町は、町民に町の予算や事業への関心を高めてもらうため、町予算を分かりやすく解説した冊子「わたしたちのまちの予算と仕事」を作成し、全世帯へ配布した。A4判約百ページで、文字を大きくするとともに、写真や地図なども掲載している。

カプセル Now & New

情 報

ビジネスマンの「ひるめし」考現学

酒井伸雄(食文化史家)

それまでは朝夕二回の食事が常識であつたところに「ひるめし」が加わって、庶民の間にまで一日三回の食事という習慣が定着したのは、江戸幕府が開かれて間もない十七世紀の中ごろのことであつた。つまり現在では食へることが当たり前と、誰もが信じて疑わない「ひるめし」には、わずか三〇〇年あまりの歴史しかないのである。

江戸時代でも遠い田畑で働くとき、海へ出て漁をするときなどには、弁当を持って出掛けるのは当たり前のことであつた。明治時代に入りと役所も充実し、会社の数も増えその規模も大きくなっていくにつれて、都会で生活をする勤め人が急速に増えてくる。給食も外食もほとんど発達していなかつた時代、勤めに行くのには江戸時代と同様に弁当を持参するのが普通であつた。

はじめのころの弁当は、梅干し入りの握り飯にたくあんを数切れといつた粗末な内容で、ただ空腹を満たせばよいというものであつた。時代とともにおいしさや栄養のことも考えられるようになり、またおかずに対する主婦の見栄も手伝つて、大正時代もなかなばを過ぎるころには、弁当は空腹を満たすものから、食へる人の嗜好を満たすものへと進化し

ていった。こうして、大正後期から昭和二十年代まで、弁当の全盛期を迎えたのである。

日本では昔から食事をアツアツの状態を提供することが最高のご馳走とされている。アツアツが喜ばれるのは、なにも日本の伝統的な食事であるご飯とみそ汁だけではない。西欧では保存食品として扱われているパンも焼きたてのトーストにし、出来たてのハムエッグにホットコーヒーを添えるのが朝の洋風食卓の情景であろう。職場には給食が普及し、街へ出ればサラリーマンを対象にした食べ物屋が軒をつらねている。経済的にゆとりが生まれ、ポケットマネーで温かい「ひるめし」を自由に選べるようになれば、冷えてきている手作りの弁当は敬遠されて、しだいに影をひそめていくのも当然である。

家庭でつくる弁当が敬遠されて少数派になる一方で、いつでもアツアツで食べられる弁当、具体的には出来たての温かさを売り物にするほか、弁当や電子レンジで温めてくれるコンビニ弁当など、新しいタイプの弁当が登場してくる。時とともに、「外で買って食へる弁当」の利便さが認められて、広く利用されるようになってきた。現在では握り飯な

ども含めた弁当類は、コンビニエンス・ストアの売上げの大きな部分を占めるようになり、もはや店の経営にとっては欠かすことのできない大切な商品になっている。こうして現代の弁当は、「家でつくって持って行く食べ物」という弁当本来の特性を失うかたわらで、「外で買って持ち帰って食へるもの」という新しい性格を持つようになったのである。

「外で買う弁当」が完全に市民権を得たのに対応するかのように、近ごろ生まれてきた造語に、ワンコイン〇、ワンコイン亭主という言葉がある。かたや旅行や英会話などの趣味を充実させるためにランチ代を節約する〇したちのことであり、他方は不況のもとで小遣いも十分ではない昼飯代を削らざるをえないお父さんたちのことである。同じように五〇〇円玉一個の「ひるめし」であつても、ワンコイン〇しという呼び名には彼女たちのこだわりを感じるのに、ワンコイン亭主にはもの哀れさを感じるのなせだらうか。ワンコインで「ひるめし」を済ませようとすると人たちが増えてきているのに対応するかのようには、ほかほか弁当でもコンビニ弁当でも、値段の中心帯はワンコイン以下に設定してあり、五〇〇円で買えない弁当はきわめて少ない。さらに追い打ちをかけるように、二八〇円の牛丼、六五円のハンバーガーなどの値下げ競争は一種の社会現象となつて、ワンコイン族の生活に味方をしていく。

新刊紹介

「中山間総合整備事業の手引」

平成十三年度改訂版

農林水産省農村振興局

整備部農村整備課 監修

中山間地域は条件面の不利はありますが、食料生産の場として、また国土・環境保全等の公益的機能を有する場として重要な役割を果たしています。

このような中山間地域において、特色のある地場産業を振興していくためには、就業機会、アクセス条件の改善、生活環境基盤の整備をはじめ、情報通信、医療、教育、文化など各種の施策が総合的に行われることが必要です。また、施策の展開にあたっては、複数の市町村が連携し、役割を分担しつつ広域的な地域づくりを目指すことが重要です。

特に、農業生産基盤と生活環境基盤の一体的・総合的整備や各地域における創意工夫を基本とした特色ある地域づくりが重要となります。

このため、本書では中山間地域対策の事業体系・中山間総合整備事業・ふるさと水と土保全対策・棚田地域等保全対策・農村振興情報基盤対策などの計画や実施のあり方等について、質疑応答を加えてわかりやすく解説しています。

中山間総合整備事業に取り組んでいる農林水産省の関係部局が監修、関係資料も整備しており、中山間地域対策に取り組んでおられる関係者の必須の図書となっています。

公共事業通信社発行

TEL: 〇三三 三八一四 七七八一

定価 本 編 三、八〇〇円

資料編 二、〇〇〇円

随 想

洪水に学ぶ



京 都 府 長
 大 江 町 長
 佐 藤 克 巳

随 想

大江町は、京都府北部に位置し、「明智光秀の城」のある福知山市、日本三景の一つ「天の橋立」のある宮津市、「岸壁の母」で知られる舞鶴市、「足利尊氏誕生の地」である綾部市、この地方四都市に囲まれた人口五、七〇〇人の過疎に悩む小さな農山村である。

昭和二十六年四月、隣接し密接な関係にあった一町五カ村が合併して誕生した。町名は、「むかし丹波の大江山、鬼ども多く……」と小学唱歌に歌われた「大江山」に因み、「大江町」と命名した。今年、半世紀を歩み続けて五十年の大きな節目を迎えている。

町の地勢は、北に大江山と、伊勢神宮のルーツ元伊勢の内宮、外宮が鎮座し、中央には一級河川の由良川が貫流している。

およそ町づくりは、その町の地

理的条件を基盤としなければならぬと常々思っているが、中央を流

れる由良川は、河口に近く最下流に位置する盆地であるため勾配緩く、度々氾濫し、毎年の如く水害が発生し甚大な被害を受けている。「山峡の0メートル地帯」、水害常襲の町と呼ばれてきた。被災回数は、昭和二十八年の台風十三号を頂点として今日までに五十回を数え、その内、実に六回に及ぶ災害救助法の適用を受けている。

正にこの半世紀は水害との闘いの歴史であり、産業の振興並びに人口の定着は著しく阻害されてきた。発足当時の人口は約一、二、〇〇〇人であったが、昨年の国調では五、七〇五人に半減し、過疎の歯止めができぬ大江町にとって、水に強い安心安全の町づくりは、今も町政の最大の課題である。

今も町政の最大の課題である。

現在、平成元年に建設省(当時)京都府、大江町の三者で策定した「二十一世紀を目指した我が町の河川整備構想(あしぎぬりパー構想)」により治水工事が進捗し、「水に強いまちづくり」が着実に進められている。

ところで、私は合併当初から現場職員として土木を担当し、洪水の予報、災害復旧などの建設の職務にあたっていたことから、水に寄せる思いが強く、浅学を顧みず水に関する書物にふれることが多く、今日の現職にあつて残念ながら、水以外のことはあまり判らな

いという行政音痴である。既に四十年の星霜がすぎたが、今も忘れることのないのは、昭和三十六年新春の仕事始めの席上、当時の岡垣町長が職員に色紙を配られた。その色紙には、「水の五則」が書かれてあった。

一、自ら活動して他を働かしむる者は水なり。
 一、常に己れが進路を求めて止まざる者は水なり。

一、障害に逢ひ激しく其の勢いを百倍する者は水なり。

一、洋々として大洋を充し発しては蒸気となり、雲となり、雨となり、雪となり、凝って玲瓏たる鏡となり、而も其の性を失わざる者は水なり。

一、自分を清め他を洗い清濁併せ入る者は水なり。

福岡藩主、黒田官兵衛(号は如水)の教えである。

当時三十六才であった私は、この五則に深く感動し、こうした水の姿というか水の有様を、自分の生きる指針として実践したく思い、今もこの色紙を保存して、折にふれ、又、仕事の節目にこの五則を読んで、自らを戒めている。

又、町内で由良川の氾濫の際、最も早く人家が浸水する五十戸の集落、新町の公会堂にはこの五則が記された古びた額が掲げられている。明治の頃のものと思われるが、水害と闘いながらも水に学んだ先人が偲ばれて、その心意気に感動し、深く敬意を表している。

今、我が町では、前述の「あしぎぬりパー構想」による治水事業が大きく進み、水害の暗いイメージを克服しつつ、「大江町の鬼伝説」活かした個性ある町づくりを進め、昨年十月には日本の鬼の交流博物館を天皇皇后両陛下にご視察賜り、町史に輝く大変な栄誉に浴したところである。

拙筆にあたり、諸賢のご指導を切に願います。

情 報

政策リーダー

政策リーダー

消防団のあり方に関する検討委員会第一次中間報告発表 総務省消防庁

総務省消防庁は十月十七日、「新時代に即した消防団のあり方に関する検討委員会第一次中間報告」を発表した。

報告では、消防常備化の進展、就業構造の変化による被雇用者の増加、国民意識の変化など消防団を取り巻く環境の変化により、消防団は、団員数の減少、サラリーマン団員の増加等、様々な課題に直面しており、今後、これらの変化に対応しながら地域社会の要請に添えていくためには、消防団に期待される役割として、消防防災面での幅広いニーズへの対応、消防団の組織等のあり方として、就業形態や意識の多様化に対応できる組織運営、消防団員の活動環境の整備として、団員の処遇、社会的名誉、参加へのメリットの付与、地域ごとの運営上の工夫の必要性として、地域特性に応じた運営を可能とする方策等の視点から検討を進める必要があるとしている。

また、平成十四年度予算等で講じていくことが必要な施策について、住民との新たな情報交換の場の創設等、大規模災害時に迅速かつ的確な対応を可能とする装備の充実、教育訓練の充実、各種資格取得への支援等のメリット付与、消防団員の処遇改善と活動環境の整備を挙げている。

「循環型社会の形成に関する世論調査」まとまる

内閣府及び環境省では、「循環型社会の形成に関する世論調査」(ごみ問題に対する一般的な意識、日常生活と循環型社会に対する意識、循環型社会の形成のための施策に対する意識、グリーン購入に対する意識)を実施し、このほど調査結果を公表した。

これによると、ごみ問題への関心については、約九割の人が関心があると回答し、関心の高さが伺われるが、ごみの有料化については、賛成と反対が約四割ずつで拮抗している。賛成の理由としては、リサイクルやごみになるものを購入しないなどの努力が進み、ごみの減量化につながる(六二・四%)、排出者(個人)の責任が明確になる(五一・二%)との回答が多く、反対の理由としては、ごみの不法投棄につながるなどの回答(五八・九%)が最も多かった。

また、廃棄物リサイクル関連法の周知度については、本年四月から実施されている特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)については、八五・二%の人が知っていると回答したのに対し、循環型社会の形成のため、廃棄物・リサイクル対策の優先順位を初めて法定化した「循環型社会形成推進基本法」については、十一%しか知っておらず、周知度が低いことが顕著となった。

内閣府及び環境省では、今回の調査結果を、今後、循環型社会の形成を推進するための施策等の参考とすることとしている。

農業・森林の多面的機能を評価

日本学術会議答申

日本学術会議は、このほど「地球環境・人間生活に関わる農業及び森林の多面的な機能の評価について」と題する答申を農林水産大臣に行った。

答申では、農業のもつ多面的機能の貨幣評価は、洪水や土壌浸食の防止、水資源の涵養など物理的機能だけでなく年間五兆八千億円と算定した。

また、森林の多面的機能の貨幣評価は、土壌表面の浸食防止や水資源の貯留、水質浄化、二酸化炭素吸収など年間六十七兆八千億円と算定している。

なお、数量的な評価が困難などの理由から答申には盛り込まれなかったが、保健休養など三機能についても試算している。

さらに答申では、この多面的機能に対する各国の見解を紹介し、我が国の場合、戦後の工業化・都市化によって衰弱した流域社会経済圏と隆盛している沿海社会経済圏をそれぞれ再生させ、その交流と結合が期待され、農業・森林の多面的機能が環境問題や人間的な生活のあり方も含めて、改めて注目される状況が生まれているとしている。

そして、食料や木材の多くを輸入に頼ればこれらの機能を失う一方で輸出国の環境破壊を促進すると指摘し、各国で一定の農業・森林の維持や、多面的機能を考慮した新たな貿易政策の確立を求めている。

都心に生まれたゆとりとやすらぎの空間

くつろぎを最優先にこだわった客室

(室料)
シングル 131室 8,500円より
ツイン 18室 16,000円より
 8～16F (2名)

客室は広めでシングル18㎡)羽毛寝具により心地よい睡眠に配慮いたしております。すべての客室は快適な7階以上の上層階に配され、リラックスしていただくための静かな空間を作り上げました。



シングル

官庁街に近く、最適なロケーションを誇る 全国町村会館。
 一流ホテル(帝国ホテルグループ)との提携による上質なサービスと、味わい豊かな料理、ゆとりのある客室で皆様をおもてなしいたします。



東京での週末・祝日のご利用に特別サービス

特別サービスとして

1 宿泊料金を最大20%割引いたします。

(各行事の際に、町村より一括してご宿泊をお申し込みいただいた場合は、すべて会員の特別料金を適用いたします。)

2 地元よりの特産品など、持ち込みは自由です。ご希望により調理もいたします。

ご宴会などのお料理は、ご希望とご予算に応じ、洋食・和食のいずれもご用意いたします。



ホール

- 在京出身者の集いなど 町村主催の各種行事
- 自治大学校などの交友会
- 職員旅行・家族旅行
- 小・中学校の東京での行事参加

東京観光の拠点に最適

土・日・祝日ご宿泊<特別料金>(室料)

シングルA 6,800円(通常料金 8,500円)

ツインA 12,800円(通常料金16,000円)

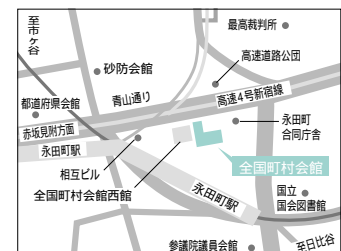
金曜のご宿泊は通常料金の15%OFFにてご利用いただけます。

東京観光地へのアクセスガイド

- 東京ディズニーランド / 地下鉄永田町駅からJR舞浜駅まで約34分
- 浅草 / 地下鉄赤坂見附駅から浅草駅まで約27分
- 東京タワー / 地下鉄永田町駅から御成門駅まで約25分
- 後樂園遊園地 / 地下鉄永田町駅から後樂園駅まで約10分
- 東京都庁展望室 / 地下鉄赤坂見附駅から新宿駅まで約10分



交通の便利なロケーションで、多勢の人にお集りいただくパーティーなどに最適です。また大小4つのホール・会議室があり、幅広い用途にお使いいただけます



【交通案内】
 有楽町線・半蔵門線・南北線
 「永田町駅」3番出口徒歩1分
 丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」徒歩5分
 タクシー 東京駅から約20分

[宿泊利用助成券契約市町村職員共済組合等一覧] 北海道市町村職員福祉協会・青森県・福島県・茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県・新潟県・富山県・石川県・福井県・長野県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県・滋賀県・京都府・兵庫県・奈良県・和歌山県・鳥取県市町村職員互助会・島根県・鳥根県市町村職員年金者連盟・岡山県・広島県・山口県・高知県・福岡県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県・地方職員共済組合(団体共済部)

ご予約・お問い合わせは **全国町村会館** TEL:03(3581)0471 FAX:03(3581)0220
 〒100-0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号